

山形県水素ビジョン(仮称)策定検討委員会(第2回)における各委員の主な御意見

骨子案全般

- 県エネルギー戦略と連動する内容は理解しているが、カーボンニュートラルに向けた取組みが多くある中で、水素利活用の取組みの重要性を記載すべき。
- 県エネルギー戦略との整合性や2050年のカーボンニュートラル実現に向けた水素の位置付けが重要。
- 水素の利活用に向けた商用化等の進捗はまだまだ途上にあり、最終的な絵姿を描くことが難しい中、「ビジョン」としての内容・方向性はこのとおり。

(数値目標に関する御意見)

- 政府の水素戦略と同様に、10年ごとなどの数値目標の設定が必要なのではないかと。政府のように水素導入量を目標として設定すると、水素の導入によりどの程度温室効果ガスが削減できたのか検証しやすいし、わかりやすい。
- マイルストーンがあるとよいのではないかと(例えば、水素の実証事業の件数など)。
- 県民が理解しやすいように、水素利活用に取り組む目的をさらに具体的に記載してはどうか。また、年度ごとの目標を具体的に記載してはどうか(水素ステーションをいつまでに整備するなど)。
- 2050年までのカーボンニュートラルに向けた定量的な目標設定が必要ではないかと。
- 今の段階で数値目標や水素によるCO₂削減効果を求めるのは時期尚早。まずは化石燃料の代替エネルギーを確保することが大前提であり、そのためにも水素の利活用を推進していかなければならない。
- 政府の数値目標がある以上後ろ向きになるわけにはいかないが、現状、目標設定は難しい。数値目標に縛られ過ぎてもいけないし、一人歩きするリスクもある。数値目標は決めるべきタイミングで設定すべき。

取組みの方向性1：県民の水素に関する理解促進

- 水素エネルギーの利活用に早期に取り組み、PRする必要があるのではないかと。

取組みの方向性2：県民生活に根差した水素の利活用推進

①電力・熱需要の脱炭素化とレジリエンスの強化

- 燃料電池の熱や電力を利用する具体的な表現を本文に入れてはどうか。
- 一般的な取組みのほかに、地域の特徴が入るような方向性を出してもよいのではないかと(例えば、冬期の水素エネルギーの利用モデルなど)。

取組みの方向性 3：水素の導入拡大を通じた県内産業の振興

②県内事業者の水素関連ビジネスへの参入支援

- 現在のところ県内企業は水素ビジネスのイメージが湧いていないため、先進事例をまとめた事例集があると理解が進むのではないか。
- 水素関連ビジネスの参入支援の具体例を示してはどうか。
- 県特有の産業での水素利活用の内容を入れてはどうか。

取組みの方向性 4：地域資源を活用した水素供給体制の整備促進

①本県の豊富な地域資源を活用した水素の製造・利活用

- 洋上風力を活用した水素の利活用や輸入水素の相手国や規模感を具体的に示してもよいのではないか。
- 先進県（宮城県や福島県）との意見交換を含めた連携が必要ではないか。

②水素ステーションの整備促進

- ステーションの整備は水素の利活用を進めるうえでポイントとなるもの。県として支援のための予算を確保する中、整備事業の具体化を進めてほしい。

水素社会実現に向けた取組みの展開イメージ

- 当面まずはどのような領域を手掛けていくのか、2030年までの取組内容をブレイクダウンすることで、方向性がより見えてくる。
- 県内産業の振興における「水素サプライチェーン関連産業の定着・活性化」は、水素供給体制の整備促進にも関連すると思われるので、再度整理されてはどうか。

その他

- 県内で製造から利活用を進めるためには、水素を貯蔵する必要があるため、水素を「貯める」表現を入れてはどうか。
- 例えば重点的に水素を利用する場所を決めてはどうか。
- 政府の補助金を上手く活用すべき。
- 水素の輸入を含めて県内の水素供給基盤を整えることが重要。